エピソード67
お父さんの言動が変わりました

このエピソードでは、教職経験4年目、27歳男性の先生の経験を紹介します。

ジュリさん
教師を目指して勉強中

先生は、5年生からヒカル君の担任になったそうです。

今、6年生のヒカル君は低学年の時は衝動性が強く、4年生でも友達に対する怒りを抑えられず暴力的になっていることが問題視される子でした。

通級による学習や放課後等デイサービスに通っていました。5年生の時にお父さんが懇談に来てくれたので、私は「ヒカル君がわかるようにゆっくりとわかりやすく話しています。」と伝えても、「厳しく言っておきます。」と言って帰っていきました。

お父さんに先生の言ったことが、うまく伝わらなかったんですね。

その話を聞いた特別支援教育コーディネーターが今度お父さんと話してみたいな、と言ってくれてその少し後にお父さんと話をする機会ができました。

コーディネーターはお父さんの話を一通り聞いて、その後にこんな風に話をしました。

「ヒカル君は小さい時から特性の強いお子さんでしたので、今、通級に通ったり、療育の放課後等デイに通ったりしています。お父さんは強い言葉や態度で言うのがいいと思っても、ヒカル君に伝わらないとしたら、ヒカル君は理解できていないかもしれません。怒鳴ったり、叩いたりしても伝わらないのであれば、関わり方を変えてみた方がヒカル君に負担がかからなくて良いと思うのですが。」

お父さんは、それを聞いてどのように言われたんでしょうか？

お父さんはその話を聞いて「いやあ、なかなか話が入らず、つい強く言っていました。低学年の時はそれでよかったけれど、最近は目つきが悪くなっているんです。私も少し思い込みの強いところがあるので、母親と一緒にヒカルのペースでやってみます。」といってくれました。

それを聞いて、先生は安心されたんですね。

その後、学校からはヒカル君が頑張ってできた時や、
少し前進した時にはしっかりとほめ、そのことを家庭にも
伝えました。

この春の懇談にまたお父さんが来てくれました。

熱心なお父さんなんですね。

私が「ヒカル君、随分変わってきましたよ。急に怒ったりしないで、落ち着いて活躍してくれています。この間も誰も司会がいなかった時、さっと手を挙げてくれたんです。」というと

「そうですか？知らなかった。家帰ったらほめてやろう！」と言った後に「僕もわかりやすく言うようにしています。イライラする時もあるんだけれど。関わり方、変えました。やっぱり、ガーっと言ったらだめだなと。」と続けました。

ヒカル君に、“わかりやすく話す”というポイントをコーディネーターの先生が伝えたのがよかったんですね。

私は思わず「素晴らしいですね、お父さん！それでヒカル君、変わっていってるんですね！」と言ってしまいました。

少し時間はかかりましたが、ヒカル君の特性に対して、お父さんが理解してくれたことで、ヒカル君の行動に変化が見られたのでしょう。学校だけでは成せることではないと感じたことでした。

お父さん、すごいですね。

ジュリさんの気づき

- 保護者と学校は一緒に子どもを育てていくパートナだと、大学で学びました。
- 保護者が子どもに具体的にどうかかわったらよいかを特別支援教育コーディネーターの先生に言ってもらえたことが、若手の先生には心強かったと思います。

お・し・ま・い

若い先生の保護者支援

ジュリさん

＜掲載してあるエピソードはエデュサポネットメンバーの経験をもとにした架空のエピソードです。＞

イラスト　尾上樹里
（北海道教育大学 大学院生）

COPYRIGHT © 2024 UEKI Katsumi, HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION all rights reserved.